

ESD推進ネットワーク全国フォーラム2020

# SDGsが創る世界と創り手を育むESD

～持続可能性が試される時代を迎えて～

東京大学大学院教育学研究科 附属 海洋教育センター

主幹研究員 **及川 幸彦** (地球環境学博士)

持続可能な開発のための教育 (ESD) 円卓会議 議長

公益社団法人 日本ユネスコ協会連盟 理事

ESD活動支援センター 企画運営委員長

前日本ユネスコ国内委員会 委員

特定非営利活動法人 SEEDS Asia 理事

# はじめに: 持続可能性が試される時代

- 絶えまい**紛争と対立**（宗教対立、民族紛争等）
- 顕在化する**環境問題**（気候変動、生物多様性、海洋問題等）
- 苛烈化する**自然災害**（地震・津波、台風、風水害、旱魃等）
- **グローバル化と自国主義**（難民・外国人労働者と保護主義）
- **経済的格差の拡大**（一部の富裕層が、大多数の富を掌握）
- **科学技術の進歩と社会構造の変革**（AIの台頭、Society 5.0）
- 急激に進む**少子高齢化**（人口減少、労働力の不足等）
- 衰退する**地方・地域**（消滅自治体、施設・学校の統廃合等）

⇒+世界的なコロナウィルスの感染拡大（COVID-19）

# 自然の災害の多発化、激甚化(災害リスクの増加)

## 災害列島日本で、いま安全な場所があるのか？

### ＜東日本大震災後の日本の主な災害＞

紀伊半島豪雨2011年9月



広島土石流2014年8月



御嶽山噴火2014年9月



鬼怒川氾濫2015年9月



熊本地震2016年4月



九州北部豪雨災害2017年7月



# 自然の災害の広域化（災害リスクの広域化）

これまでの想定が通じるのか？～災害の甚大化・広域化

西日本豪雨災害（2018年7月）

北海道胆振東部地震（2018年9月）



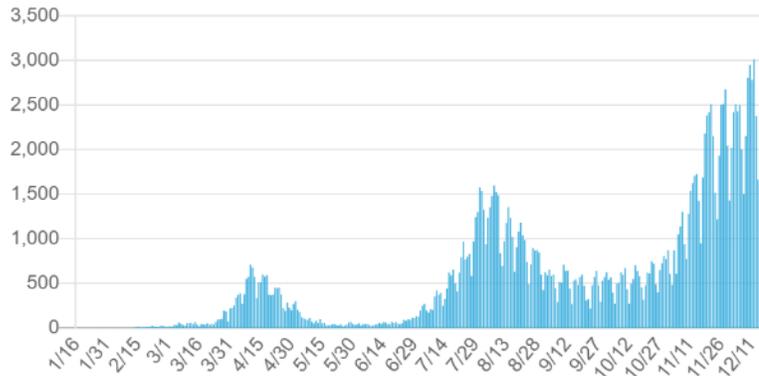
出典：共同通信社

出典：読売新聞

# コロナウィルス感染状況(国内)

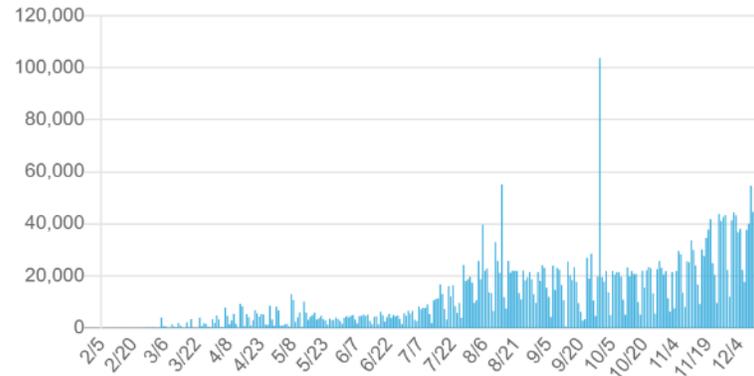
陽性者数

2,987 人  
(累計 186,377 人)



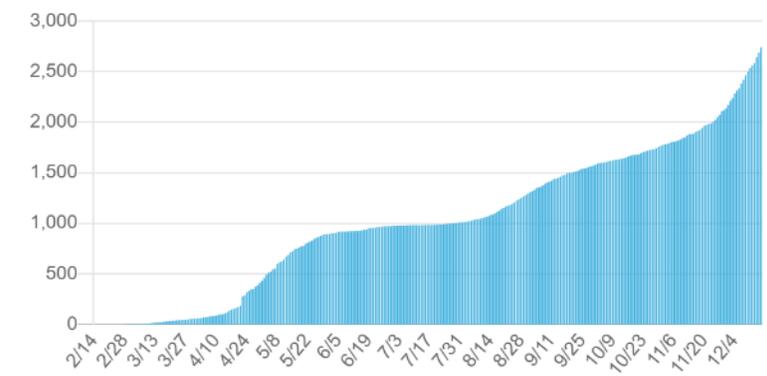
PCR検査実施人数

54,303 人  
(累計 3,841,218 人)



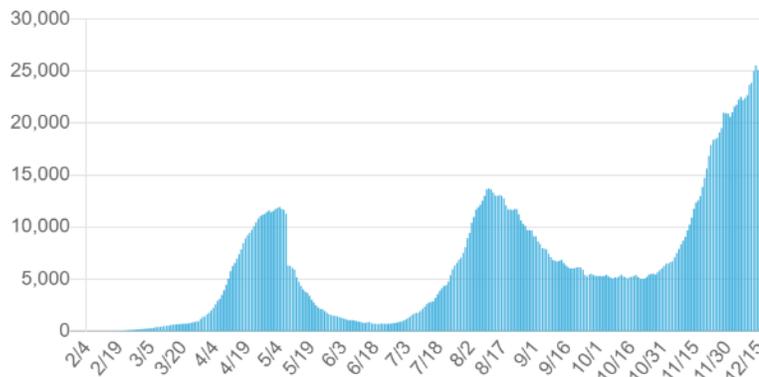
死亡者数 (累計)

2,738 人  
(前日比 +51 人)



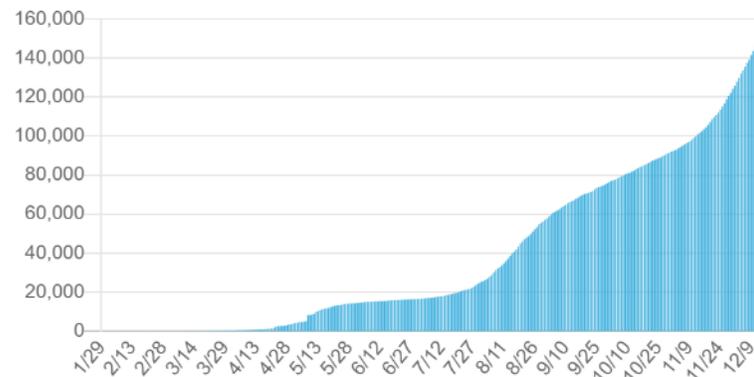
入院治療等を要する者の数

25,287 人  
(前日比 +145 人)



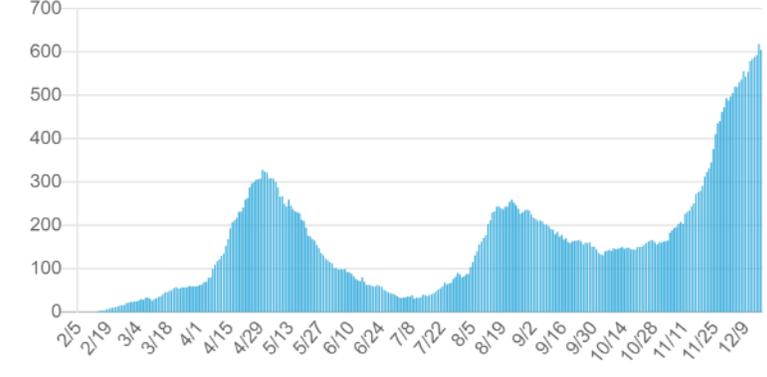
退院又は療養解除となった者の数 (累計)

156,695 人  
(前日比 +2,724 人)



重症者数

605 人  
(前日比 -13 人)



・厚生労働省発表 (国内発生状況)

・発生状況 (12月17日0:00現在)

# コロナウィルス感染状況(海外)

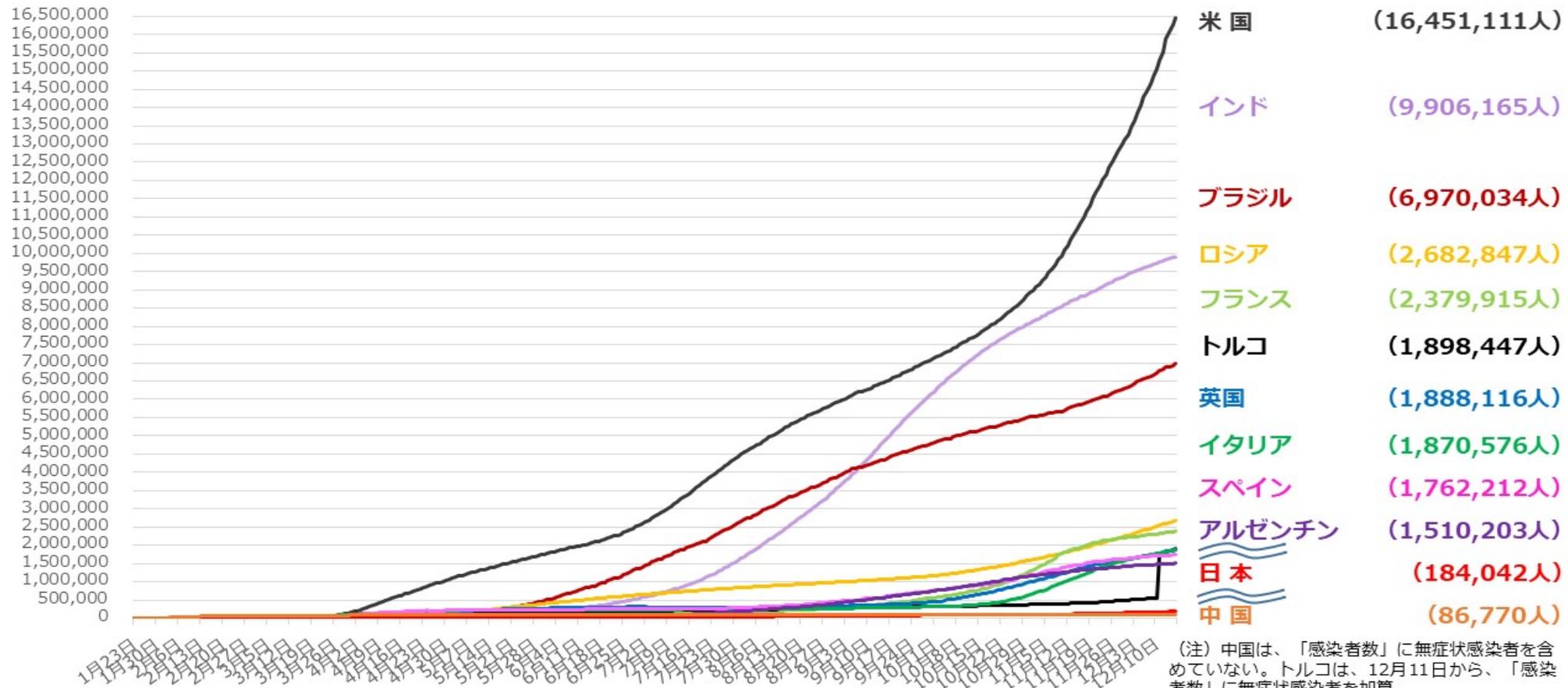
## 新型コロナウイルス 国別感染者数の推移

12/16 (水) 時点

### 国別感染者数の推移 (累積)

(上位10か国及び中国・日本)

出典：各国政府発表  
(米国は各州発表)



(注) 中国は、「感染者数」に無症状感染者を含めていない。トルコは、12月11日から、「感染者数」に無症状感染者を加算。

出典：外務省HPより

# 「ESD」とは何か？：ESD国内実施計画より

ESDに関するグローバル・アクション・プログラム実施計画 2016年3月 ESDに関する関係省庁連絡会議決定

## ・ESDとは？

「持続可能な開発のための教育（ESD, Education for Sustainable Development）」は、人類が将来の世代にわたり恵み豊かな生活を確保できるよう、気候変動、生物多様性の喪失、資源の枯渇、貧困の拡大等、人類の開発活動に起因する現代社会における様々な問題を、各人が自らの問題として主体的に捉え、身近なところから取り組むことで、それらの問題の解決につながる新たな価値観や行動等の変容をもたらし、もって持続可能な社会を実現していくことを目指して行う学習・教育活動である。（中略）

（持続可能な開発）を行う社会を実現するためには、すべての人が、人と人、人と社会、そして人と自然とのつながりを理解しようと努め、上記に掲げた様々な問題を解決するためにはどのような取組が必要かを自ら考えるような視点を身に付け、行動を起こすことが必要である。

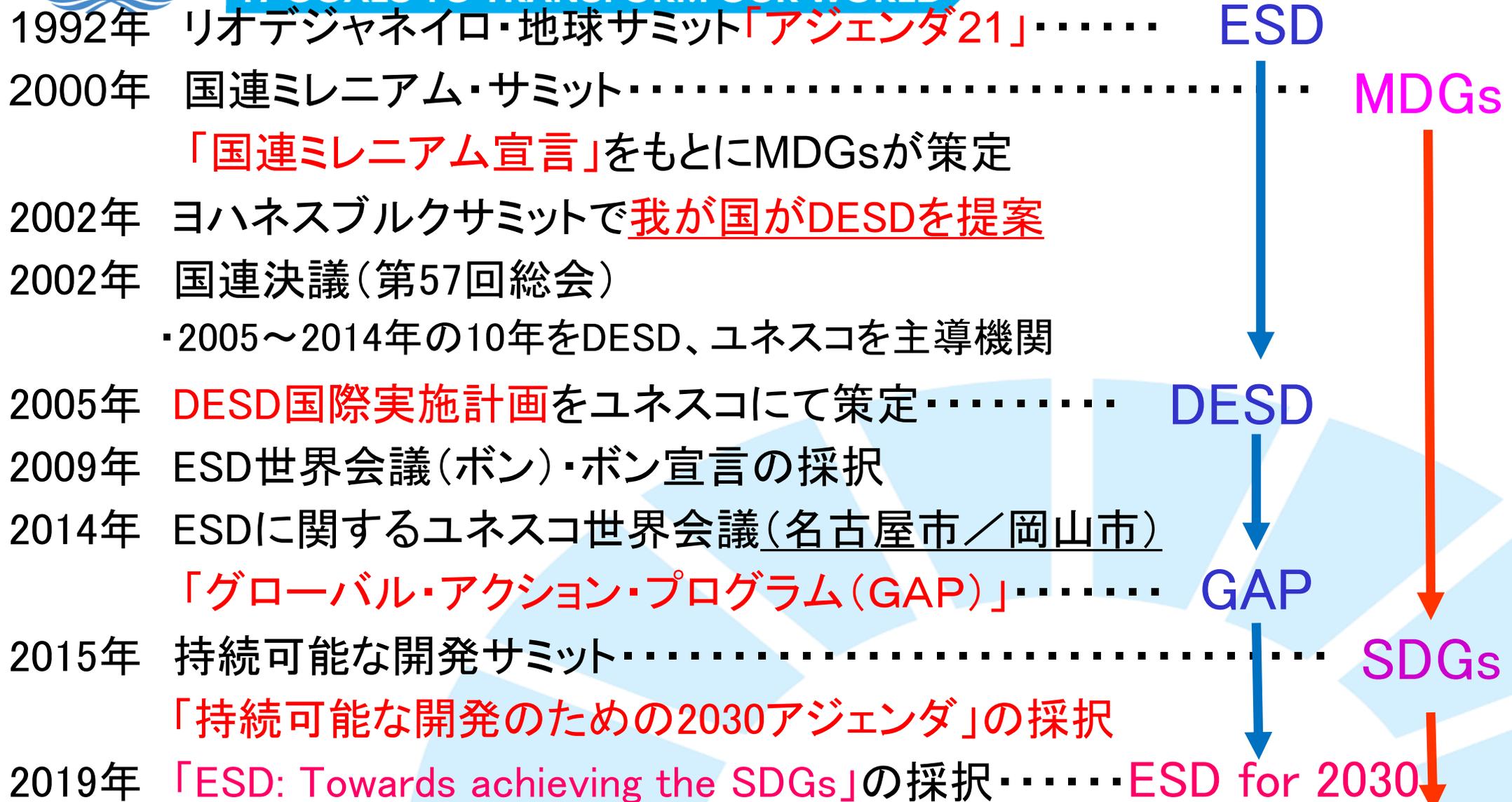


# ESDの新たな潮流 ～ESD *for* 2030～

「誰も置き去りにしない」世界をめざして

# ESD(教育)とSDGs(開発)との関係

## 国連持続可能な開発のための取り組み





「持続可能な開発のための2030アジェンダ」採択  
持続可能な開発目標（SDGs）の実施

“No one will be left behind”  
「誰も置き去りにしない」

2015年 持続可能な開発サミット（2015年9月25日）

# 国連・持続可能な開発目標 (SDGs)

2015-2030持続可能な開発目標SDGs: 17の目標と169のターゲット



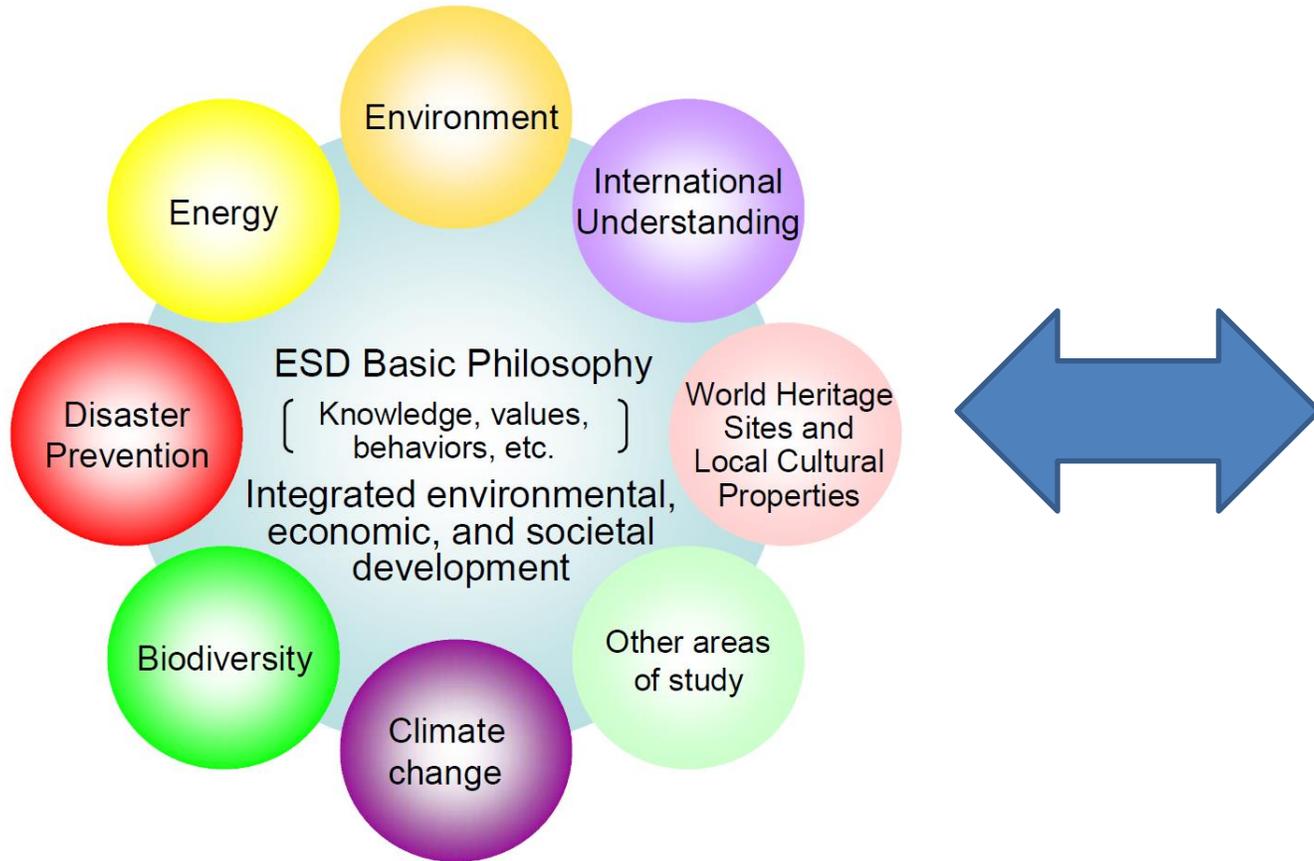
教育を通じて、  
持続可能な開発  
を促進するた  
めに必要な知識及  
び技能を習得で  
きるようにする

目標4.「すべての人に包摂的かつ公正な質の高い教育を確保し、生涯学習の機会を促進する」

4.7「2030年までに、持続可能な開発のための教育及び持続可能なライフスタイル、人権、男女の平等、平和及び非暴力的文化の推進、グローバル・シチズンシップ、文化多様性と文化の持続可能な開発への貢献の理解の教育を通して、全ての学習者が、持続可能な開発を促進するために必要な知識及び技能を習得できるようにする。」

# SDGsの全ての目標達成に貢献するESD

## ESD: Towards achieving the SDGs (ESD for 2030)



Source By UNESCO

Source By Japanese National Commission for UNESCO

Education is at the heart of the 2030 Agenda for Sustainable Development essential for the success of all SDGs

# ポストGAP: *ESD for 2030*

## ESD: Towards achieving the SDGs (ESD for 2030)

### EDUCATION FOR SUSTAINABLE DEVELOPMENT BEYOND 2019

#### SUMMARY

- Pursuant to 204 EX/Decision 28, the Director-General submits a proposal for a draft framework, entitled **Education for Sustainable Development: Towards achieving the SDGs (ESD for 2030)**, as a ten-year follow-up to the Global Action Programme on Education for Sustainable Development (2015-2019).

### 目標 (Goal of ESD for 2030) <仮訳>

- SDG 4の不可欠な要素であり、他のすべてのSDGsの重要なイネーブラーであるESDの重要性の高まりに対応して、**2030年のESDの全体的な目的は、17のSDGsの達成を通じて、より公正で持続可能な世界を構築すること。**
- 2030年のESDは、**すべてのSDGsへのESDの貢献を強化することを提案。**
- 特にSDG 4の支援に焦点を当てて**教育2030アジェンダは、人類の生存と繁栄への学習コンテンツの貢献をより重視。**

# ESD for 2030の実施枠組

## ESD for 2030 ロードマップ概要と重点実施施策

持続可能な開発のための教育 (ESD) : SDGs 実現に向けて (ESD for 2030) (2020 年～2030 年)

- 目標 : ESD の強化と SDGs の 17 の全ての目標実現への貢献を通じて、より公正で持続可能な世界の構築を目指す。
- 特徴 : ①SDGs の 17 全ての目標実現に向けた教育の役割を強調  
②持続可能な開発に向けた大きな変革への重点化  
③ユネスコ加盟国によるリーダーシップへの重点化
- 優先行動分野 : GAP の優先行動分野を継承しつつ、これまでの教訓を踏まえて一部調整。
- 実施のためのメカニズム :
  - ①国レベルでの ESD for 2030 の実施 (国内イニシアチブの設定) ※
  - ②パートナーシップとコラボレーション
  - ③行動を促すための普及活動      ④新たな課題や傾向の追跡
  - ⑤資源の活用      ⑥進捗モニタリング

※ 5つの優先行動分野のうち1つ以上に取り組むこと、5つの優先行動分野で活動する主要なステークホルダー等との多分野間に渡る提携と協力を促進すること、SDGsに関する広報・アドボカシー活動を強化すること 等。

# ユネスコ活動の活性化について(建議1)

日本ユネスコ国内委員会 令和元年10月18日

## 1. SDGs達成に向けた、持続可能な開発のための教育（ESD）の推進における主導的な役割の維持

- ESD推進のための新たな枠組みである「**持続可能な開発のための教育：SDGs達成に向けて（ESD for 2030）**」が本年秋に採択されることを契機に、**ESD提唱国にふさわしい国内外のユネスコ活動の充実**を図ること。
- その際、SDGs策定後のESDについて（中略）、SDGsに関する知識を広めるのみならず、「**持続可能な社会の創り手**」として必要な力を育むというESDの考え方をわかりやすく整理して共有すること。また、**教育関係者のみならず、民間も含めた多様なステークホルダーが連携し推進**できるよう、本建議5に提言するプラットフォームの活用を図ること。あわせて、**ESDの拠点であるユネスコスクールが活動の質を高め、その成果を普及することができるよう、指導の工夫・改善や国内外のネットワークづくりを支援**すること。
- 国際協力にあたっては、（中略）、また、**国内の教育活動と国際協力の成果が往還**するよう努めること。  
(※一部抜粋)

# ユネスコ活動の活性化について(建議4, 5)

日本ユネスコ国内委員会 令和元年10月18日

## 4.ユネスコ活動のメリットを生かした地域創生や多文化共生社会の構築

ユネスコが登録・認定を行う世界遺産、無形文化遺産、生物圏保存地域（エコパーク）、世界ジオパーク、創造都市ネットワーク等については、多様な文化が地域創生の資源となるよう、持続可能な地域づくりという観点から教育や観光等に積極的に活用することを後押しし、好事例の展開を図ること。（後略）

## 5.多様なステークホルダーの連携を深める戦略的なプラットフォームの構築

SDGsの達成に向けて積極的に取り組むユースや地方自治体、NPO、民間企業等とともに、地域の課題解決につながるユネスコ活動の更なる充実や、活動成果の国内外への戦略的発信、国内のユネスコ活動と国際協力の成果の往還等を促進するため、世代や地域を越えて多様なステークホルダーが連携し、ユネスコ活動の未来を共創するプラットフォームの構築を図ること。



# ESD *for* 2030の とらえ方・考え方

ESDとSDGsの関係性と相乗効果

# ESD for 2030の捉え方・考え方

## SDGsのESD推進への3つの効用

- 自分たちのESDの様々な活動が、**国際的に整理された目標であるSDGsの各目標にどのように貢献しているのか**を考える



1. SDGsによって自分自身の**ESDの活動に新たな意義や価値付け**を行うことであり、ESDの**目標を明確化**する方法の一つ
2. SDGsは人類共通のグローバル目標であり、それを意識してESDの活動に取り組むことは、**地域に根差した身近な活動が世界につながる**ことであり、**地球規模の課題解決に貢献**
3. この自覚と誇りをもって、学校や地域で、**SDGsを見据えながら足元の課題解決を大事に、ESDを推進していくことへの道標**



# ②多角的・関連的アプローチ(海洋教育)



目標1: あらゆる場所で、あらゆる形態の貧困に終止符を打つ



目標2: 飢餓に終止符を打ち、食料の安定確保と栄養状態の改善を達成するとともに、持続可能な農業を推進する



目標7: すべての人々に手ごろで信頼でき、持続可能かつ近代的なエネルギーへのアクセスを確保する



国際連合広報局  
資料より作成

目標15: 陸上生態系の保護、回復および持続可能な利用の推進、森林の持続可能な管理、砂漠化への対処、土地劣化の阻止および逆転、ならびに生物多様性損失の阻止を図る



目標14: 海洋と海洋資源を持続可能な開発に向けて保全し、持続可能な形で利用する



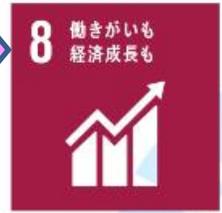
## 海洋教育



目標4: すべての人々に包摂的かつ公平で質の高い教育を提供し、生涯学習の機会を促進する



目標8: すべての人々のための持続的、包摂的かつ持続可能な経済成長、生産的な完全雇用およびディーセント・ワークを推進する



目標13: 気候変動とその影響に立ち向かうため、緊急対策を取る



目標12: 持続可能な消費と生産のパターンを確保する



目標11: 都市と人間の居住地を包摂的、安全、レジリエントかつ持続可能にする





# ESD for 2030を進めるポイント

1. 持続不可能な諸課題は、海外だけではなく国内や地域にも存在することを意識させる。
2. それらの課題は、SDGsと一対一対応ではなく、複雑に絡んでいることを地域の課題に即して認識させる。
3. それらの諸課題を理解するだけの学習ではなく、その課題解決に向けて地域から世界への行動を促す。
4. 学校教育のみではなく、社会教育や企業、市民レベルでの人材育成を通して生涯にわたって探究を喚起する。

⇒ Education of SDGsからEducation for SDGs(2030)へ



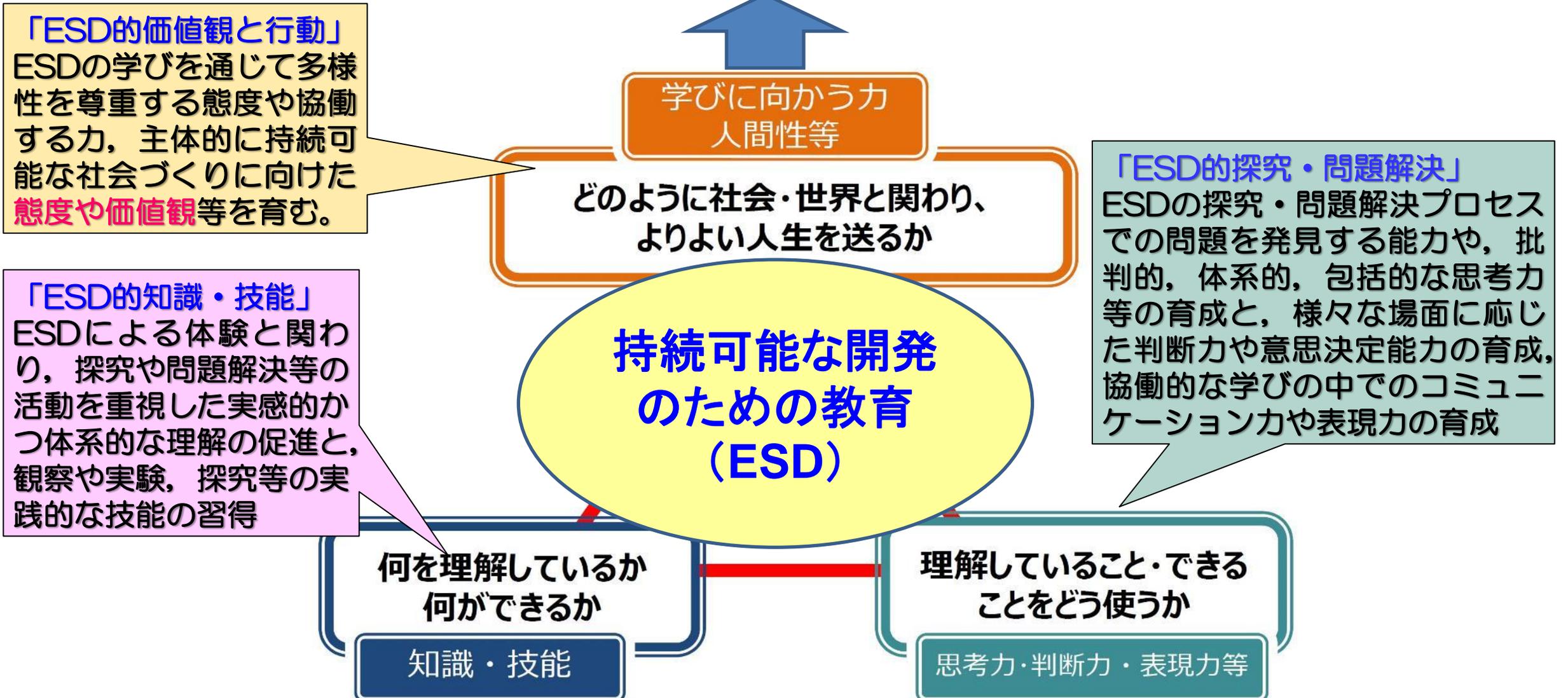
# ESDとこれからの教育

～持続可能な社会の創り手の育成～

# 新学習指導要領とESD: 前文抜粋

- これからの学校には、（中略）一人一人の児童が、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるようにすること（=ESD※筆者挿入）が求められる。このために必要な教育の在り方を具体化するのが、各学校において教育の内容等を組織的かつ計画的に組み立てた教育課程である。
- 教育課程を通して、これからの時代に求められる教育を実現していくためには、よりよい学校教育を通してよりよい社会を創るという理念を学校と社会とが共有し、それぞれの学校において、必要な学習内容をどのように学び、どのような資質・能力を身に付けられるようにするのかを教育課程において明確にしながら、社会との連携及び協働によりその実現を図っていくという、社会に開かれた教育課程の実現が重要となる。（新学習指導要領案前文）

# 「持続可能な社会の創り手」に生きる力を育む



# 学習指導要領改訂の方向性とESD

平成28年8月1日  
「中央教育審議会  
教育課程企画特別部会  
資料」より作成

## 資質・能力

新しい時代に必要となる資質・能力の育成と、学習評価の充実

学びを人生や社会に生かそうとする  
学びに向かう力・人間性の涵養

生きて働く知識・技能の習得

未知の状況にも対応できる  
思考力・判断力・表現力等の育成

何ができるようになるか

## 目標

よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創るという目標を共有し、  
社会と連携・協働しながら、未来の創り手となるために必要な資質・能力を育む

「**社会に開かれた教育課程**」の実現

各学校における「**カリキュラム・マネジメント**」の実現

学習指導要領  
の基盤となる  
理念＝ESD

何を学ぶか

どのように学ぶか

## 内容

新しい時代に必要となる資質・能力を踏まえた  
教科・科目等の新設や目標・内容の見直し

小学校の外国語教育の教科化、高校の新科目「公共（仮称）」の新設など

各教科等で育む資質・能力を明確化し、目標や内容を構造的に示す

**学習内容の削減は行わない**※

主体的・対話的で深い学び（「アクティブ・ラーニング」）の視点からの学習過程の改善

生きて働く知識・技能の習得  
など、新しい時代に求められる  
資質・能力を育成

知識の量を削減せず、質の高い  
理解を図るための学習過程  
の質的改善

主体的な学び

対話的な学び

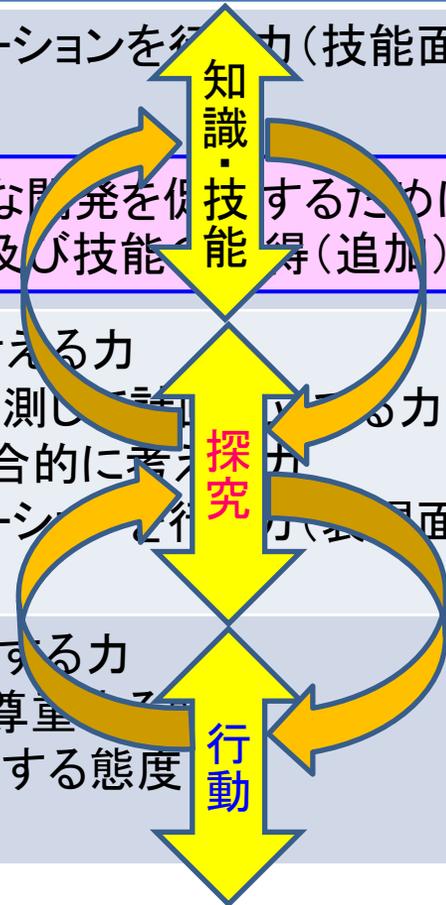
深い学び

## 方法

※高校教育については、些末な事実に基づく知識の暗記が大学入学者選抜で問われることが課題になっており、そうした点を克服するため、重要用語の整理等を含めた高大接続改革等を進める。

# ESDで育む資質・能力・態度

<h2>新学習指導要領</h2>	<h2>ESDで育む能力態度 ※国立政策研究所</h2>	<h2>ESDで育みたい力 ※日本ユネスコ国内委員会</h2>
<p>◇実際の社会や生活の中で生きて働く「知識及び技能」 ※何を理解しているか、何ができるか</p> <p>★持続可能な開発を促進するために必要な知識及び技能の習得(追加)</p> <p>◇未知の状況にも対応できる「思考力、判断力、表現力等」 ※理解していること、できることをどう使うか</p>	<p>④ コミュニケーションを行う力(技能面)</p> <p>★持続可能な開発を促進するために必要な知識及び技能の習得(追加)</p> <p>① 批判的に考える力 ② 未来像を予測し計画を立てる力 ③ 多面的・総合的に考える力 ④ コミュニケーションを行う力(表現面)</p>	<p>④ コミュニケーション能力(技能面) ⑤ 情報の分析能力</p> <p>★持続可能な開発を促進するために必要な知識及び技能の習得(追加)</p> <p>① 批判的に考える力(問題や現象の背景を多面的かつ総合的なものから考察する力) ② 思考力(批判力) ③ コミュニケーション能力(表現面)</p>
<p>◇学んだことを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力、人間力等」 ※どのように社会・世界とかわりよりよい人生を送るか</p>	<p>⑤ 他者と協力する力 ⑥ つながりを尊重する態度 ⑦ 進んで参加する態度</p>	<p>④ 持続可能な開発に関する価値観(多様性の尊重、非排他性、均等、環境の尊重等) ⑤ シリッパの向上</p>



体験・交流・発信

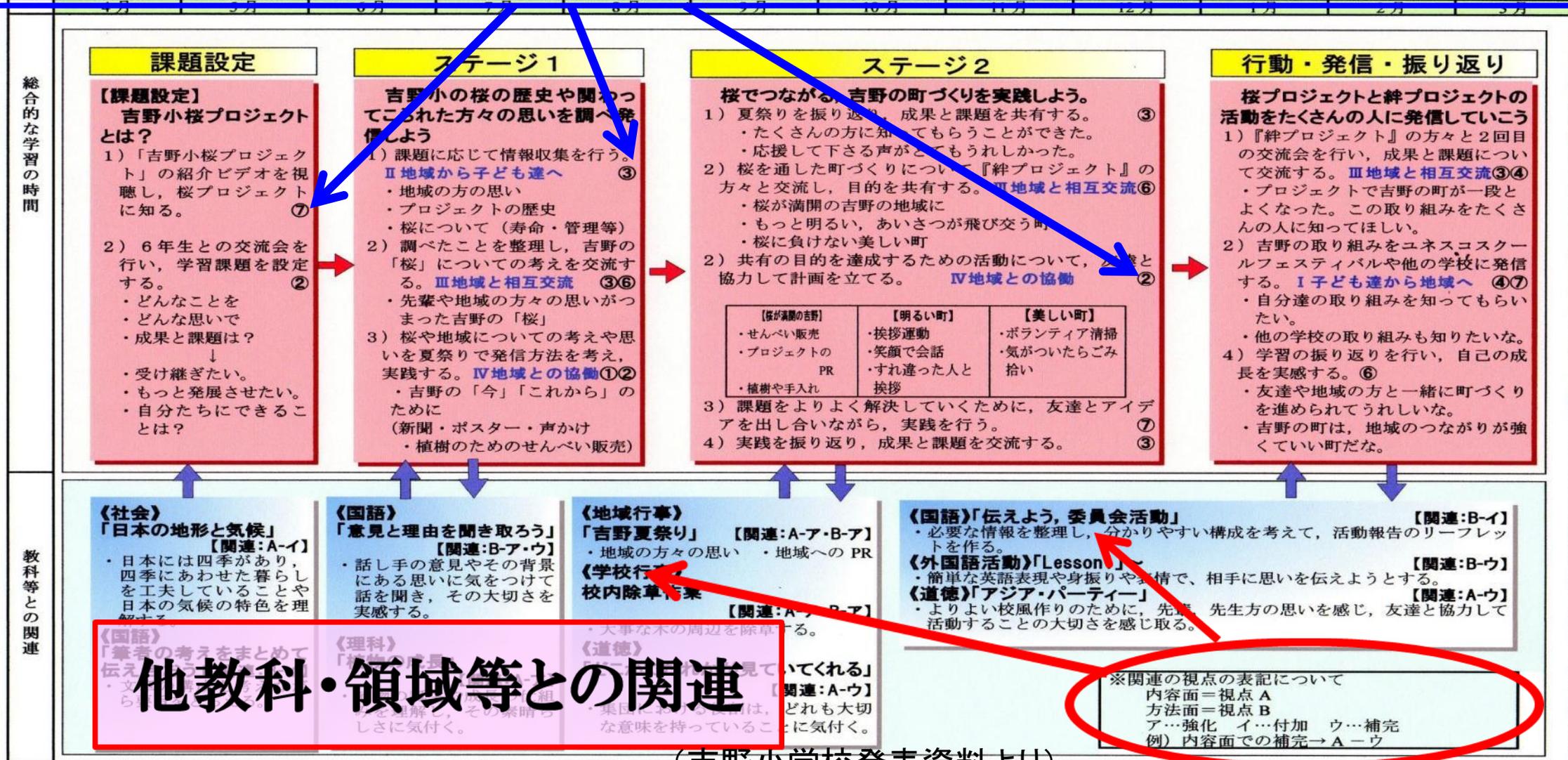
# 福岡・大牟田へ(ESDストーリーマップ・吉野小学校)

## ESDで身に付けさせたい能力・態度を育む活動

5年 思いをつなげ!! 吉野小桜プロジェクト

目指す姿： 吉野小のシンボルである桜について、先輩や地域の方々の思いや願いについて取材して自分の考えをつくり、地域に多様な方法で発信したり、友達や地域の方々と協働で桜を通じた町づくりについて考えを共有したり、地域を元気にするために、地域の方々と協力して町づくりを進めたいという思いを育むことができる。

①批判的に考える力 ②未来像を予測して計画を立てる力 ③多面的、総合的に考える力 ④コミュニケーションを行う力 ⑤他者と協力する態度 ⑥つながりを尊重する態度 ⑦進んで参加する態度



### 他教科・領域等との関連

※関連の視点の表記について  
 内容面=視点 A  
 方法面=視点 B  
 ア…強化 イ…付加 ウ…補充  
 例) 内容面での補充→A-U

(吉野小学校発表資料より)

# 持続可能な社会を目指す今後の教育ビジョン

## ESD/SDGsと新学習指導要領の方向性

1. ESD の教育的意義⇒E（教育）とSD（地域創生）の融合
2. 学習指導要領とESD⇒基盤となる理念としてのESD
3. ESD による教育の改善⇒学習スタイル変革と資質/能力育成
4. 社会に開かれた教育課程を実現するESD⇒地域連携・協働
5. 社会の創り手を育てる教育⇒SDGsと地域づくりへの貢献
6. 今後の教育の方向性⇒「自己実現」から「共生・共創」へ



# 持続可能な地域を創る ESD for 2030の実践

持続可能な地域の創造をめざすESD

# 大牟田版SDGs ver.2～①地域に根差したSDGs

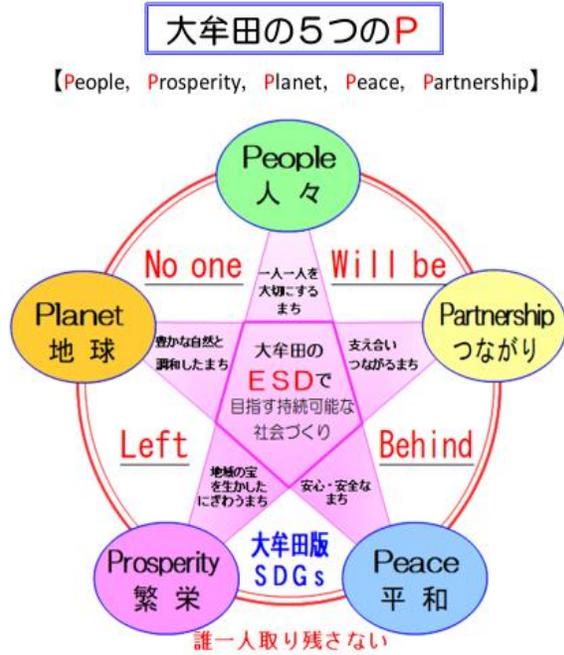
## 地域の文脈に即し、地域の課題に向き合うSDGs

**Sustainable Development Goals** 大牟田版SDGs

【Omuta Ver. 2】

世界文化遺産「三池港」

大牟田市教育委員会発行



**持続可能な大牟田のまちづくりビジョン**

**大牟田版SDGs 5つのP**  
 大牟田市は、三池炭鉱と石炭関連産業の繁栄と共に急速な発展を遂げてきました。その後、炭鉱閉山により人口減少、少子高齢化進み、持続可能なまちづくりが喫緊の重要課題となっています。  
 そこで、これまで培ってきた歴史と文化を大切に「5つのP」をキーワードに大牟田版SDGsの達成を通して持続可能なまちづくりをすすめます。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

**持続可能な開発目標『SDGs』について**

開発アジェンダの節目の年である2015年の9月、ニューヨーク国連本部において「国連持続可能な開発サミット」が開催され、150を超える加盟国首脳が参加のもと、「我々の世界を変革する：持続可能な開発のための2030アジェンダ」が採択されました。  
 このアジェンダは、人間、地球及び繁栄のための行動計画として、宣言および目標を掲げました。この目標が、ミレニアム開発目標（MDGs）の後継であり、17の目標と169のターゲットからなる「持続可能な開発目標（SDGs）」です。  
 今日、世界各地で進展がみられますが、2030年までにSDGsを達成するには、取り組みのスピードを速め、規模を拡大しなければなりません。2020年1月、SDGs達成のための「行動の10年（Decade of Action）」がスタートしました。  
 国連に加盟するすべての国は、全会一致で採択したアジェンダのもと、2015年から2030年までに、貧困や飢餓、エネルギー、気候変動、平和的社会など、持続可能な開発のための諸目標を達成すべく力を尽くします。

※ 国際連合広報センターホームページより

**大牟田市のSDGs達成に向けたESDの取組**

大牟田市の全ての市立学校は、平成24年1月にユネスコスクールの認定を受け、学校や地域の実態に合わせて、持続可能な開発のための教育（ESD）をすすめています。大牟田市では、学校と家庭と地域などが連携・協力し、市をあげてESDを進めています。

**大牟田市の取組**

ユネスコスクールの日の制定(0年) SDGs/ESD全国実践交流会(0年) 子ども大牟田塾ガイドブック(0年作成)

SDGs/ESD子どもサミット(0年) ネイチャースクール(0年) ESDちいき講座(0年)

**各学校でのESDの取組**

子どもボランティアガイド(小学校) 百目小さくらプロジェクト(小学校) 子ども民衆参事活動(中学校) 海洋教育(中学校)

それぞれの地域の課題解決に向けたESDの充実

◆ 各学校や地域の特色を生かし、身近な課題について学習することを通して、自分の問題として捉え、自分でできる身近なことを考え、行動できる子どもを育てています。



# 大牟田版SDGs ver.2～③ゴールを連関した取組

出典：大牟田市教育委員会



# 大牟田のESD for SDGsの可能性

持続可能な大牟田を創るESD for SDGsへの挑戦

## 大牟田市によるSDGsの達成を目指したESDの推進

「RCE」及び「SDGs未来都市」大牟田としてESDを進めていく中で、自分たちの様々な活動が、国際的に整理された目標であるSDGsの各目標にどのように貢献しているのかを考えながら持続可能な大牟田の街づくりを目指す。

- ① SDGsの視点で、自分自身のESDの活動に新たな意義や価値付けを行い、ESDの活動の目標を明確にする。
- ② 人類共通のグローバル目標であるSDGsを意識してESDの活動に取り組むことは、地域に根差した身近な活動が世界につながることであり、地球規模の課題解決に貢献することを認識する。

SDGsを見据えつつ、学校や地域で足元の課題解決を大切にESDを推進  
Think Globally, Act Locally !!

# 令和2年7月豪雨災害の大牟田の被害状況

## 豪雨によるみなと小学校の被災(7月6日)

大牟田市教育  
委員会提供



7月6日夕方 冠水し始める。水かさが増す



7月6日夕方 短時間で冠水、正門近くの道路から車が流されてきた



7月6日夕方 冠水し停電した1年生教室



7月6日夜 学校付近は停電で真っ暗



7月6日夜 児童の靴箱、冠水し散乱



7月6日夜 「冠水した校長室」

# 翌日のみなと小の児童の救出(7月7日)

大牟田市教育  
委員会提供



自衛隊により児童・教職員が救助される



福岡県警察に児童・住民が救助される

# みなと小学校の再開(7月13日)

大牟田市教育  
委員会提供



7月13日 正面玄関の支援者や地域の方へのメッセージ



7月13日 1週間ぶりの学校再開。元気に子どもたちが登校するのを校長が出迎える



# 自然災害への対応と復興で 生きるSDGs/ESD

自然災害の危機対応と復興に貢献する  
SDGs/ESD

# 東日本大震災の被害状況(全体)

## Damage of East Japan Earthquake and Tsunami

### 1 発生

日時	2011年3月11日(金) 14時46分
深さ	約24km(暫定値)
規模	マグニチュード9.0
震度	7(宮城県・栗原市)
特徴	海溝型 津波による被害、原発事故

### 2 被害(26年9月1日現在※消防庁)

死者	19,074人
行方不明者	2,633人
負傷者	6,219人
全・半壊棟数	400,629棟



宮城県南三陸町



宮城県仙台平野



旧石巻市立大川小学校





# 気仙沼市の被災状況

17 GOALS TO TRANSFORM OUR WORLD

気仙沼市秘書広報課作成

■ 事業所数	4,102事業所	
うち被災事業所数(概数)	<u>3,314事業所</u>	80.7%
■ 従業者数	30,232人	
うち被災従業員数(概数)	<u>25,236人</u>	83.5%

※注1) 事業者数と従業員数は平成21年経済センサス基礎調査区別集計による

※注2) 被災事業所数等は、津波の浸水による直接的な被害の規模を推し量る目安として、航空写真・衛星画像等から総務省が平成23年度に推定したもの



# 防災教育で育む力と新学習指導要領の資質・能力

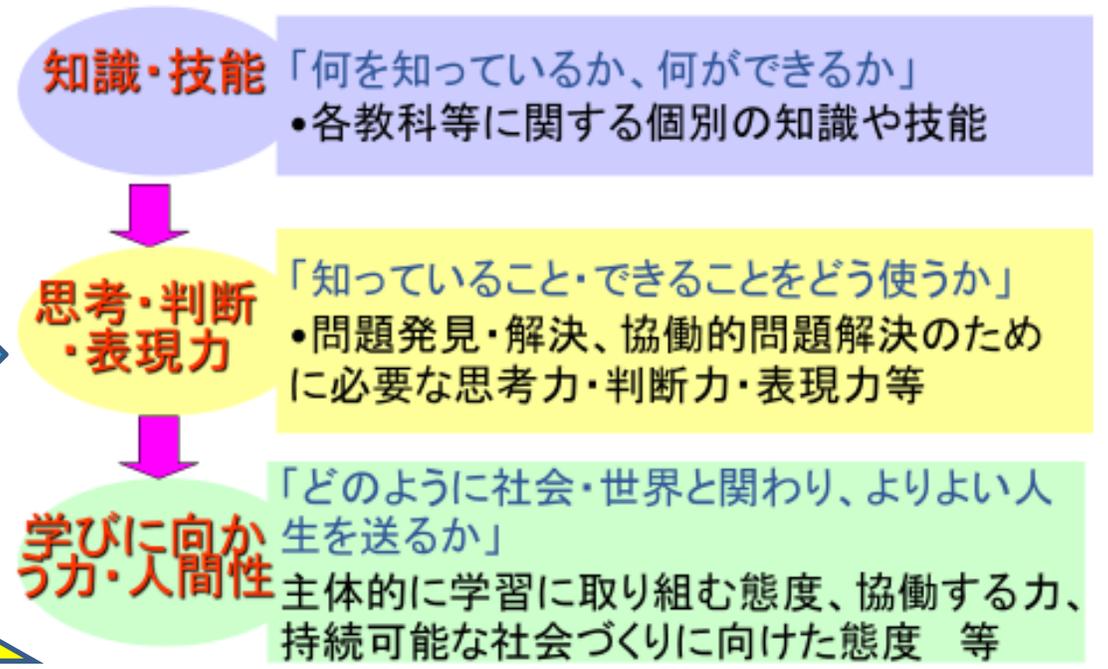
## ESDの視点からの防災力（及川）

### 防災/減災教育で育む能力・態度



## 新学習指導要領(H29/30年度改訂)

### 新学習指導要領で育成すべき資質・能力



**基盤：持続可能な社会の構築に関する価値観** (人間尊重, 多様性尊重, 非排他性等)



# 持続可能なプロセスとしてのESD/減災教育

## DRRE as Learning Process toward SD

段階 Stage	Step 1 災害発生の仕組み Mechanism	Step 2 災害の社会や環境への影響 Linkage	Step 3 災害リスク軽減への対応と準備 Action	Step 4 被災からの復興 持続可能な社会 Recovery
能力 Ability	知識・理解 Knowledge & Awareness for Mechanism	関係性の認識力 Recognition of Influence & Relation	備え・対応の行動力 Action for Response & Preparedness for Mitigation	協働性と創造力 Creativity and Collaboration for Recovery & BBB
学習内容 Content	気候変動や災害の種類や発生のメカニズムを科学的・客観的に理解する Mechanism of disaster	気候変動と災害が人間生活や環境、文化にどのような影響を与えるかを認識する Influence on society & life	気候変動がもたらす災害のリスクを軽減するための準備や対応の仕方を理解し実践する Mitigation and Adaptation	災害による被災からの創造的復興(BBB)に向けたプロセスや貢献のあり方を学ぶ Recovery process
ESD	科学的理論 Scientific 環境的要因 Environmental 社会/経済的要因 Socio-Economic	社会的影響 Social 経済的影響 Economic 文化的影響 Cultural	インフラ Infrastructure 組織力 Management 知恵・スキル Wisdom, Skill	経済的復興 Economic 文化的復興 Cultural 精神的復興 Spiritual

# 防災・減災のために必要なネットワーク

ESDで構築する共助・公助、そしてN助



**自助、共助、公助 + N助による防災・減災・復興**

**Self-help/Mutual-help/Public-help + Network-help<sup>43</sup> = ESD-help**



SUSTAINABLE  
DEVELOPMENT GOALS  
17 GOALS TO TRANSFORM OUR WORLD



# コロナ禍で生きるSDGs/ESD

Withコロナの中でのSDGs/ESDの推進

# コロナ禍とSDGs/ESD

1. コロナ禍は、**持続可能な社会の達成の試練**である。
  2. コロナ禍の克服は、**SDGsの目標（Goal 3）**であり、**ESDのテーマ**ともなる。
  3. コロナ禍の下で、**価値観やライフスタイル（新たな日常）の転換**が求められる。
  4. コロナ禍の環境下での、**ESD for SDGsの新たな推進方法や学び方を模索**しなければならない。
- ⇒ コロナ禍でも、“誰一人取り残さない”社会の実現を

# コロナ禍で求められるESDの推進

1. 授業時（日）数の制約⇒限られた時間でのESDの実践
  2. 体験的活動の制約⇒実感的・体感的学習の内容と質の革新
  3. 探究・問題解決学習の制約⇒学習者主体・参画型の学びに
  4. 直接的コミュニケーションの制約⇒交流・つながりの創出
  5. 地域・社会との連携の制約⇒地域・社会に開かれた教育課程
  6. 社会参画への制約⇒コロナ禍での地域創生の貢献の在り方
- ⇒コロナ禍でのESDによるSDGsの価値観や行動の変容

# コロナ感染拡大防止のポイント

## 大牟田市教委のコロナ対応からの教訓

1. コロナ・パンデミックに関する情報を、市長、教育委員、市議会、学校、教師、学生、保護者と正確かつ迅速に共有する。
2. コロナ感染の予防に対する教育的対応の原則と方針をできるだけ早く示す。
3. BOE、校長、教師、保護者の役割分担を明確にする。
4. 根拠に基づいて、対応の意思決定プロセスを可視化する。
5. 疫学に関する専門家の知識とアドバイスを、コロナ感染予防の意思決定と対応に取り入れる。

➡コロナ感染拡大への対応は、災害危機対応と本質的に共通<sup>47</sup>

# 持続可能な社会の構築のプロセス

コロナ禍でも誰も  
取り残さない世界

持続可能な社会の実現

アジェンダ  
21

コロナとの共生  
と新たな日常



SDGs

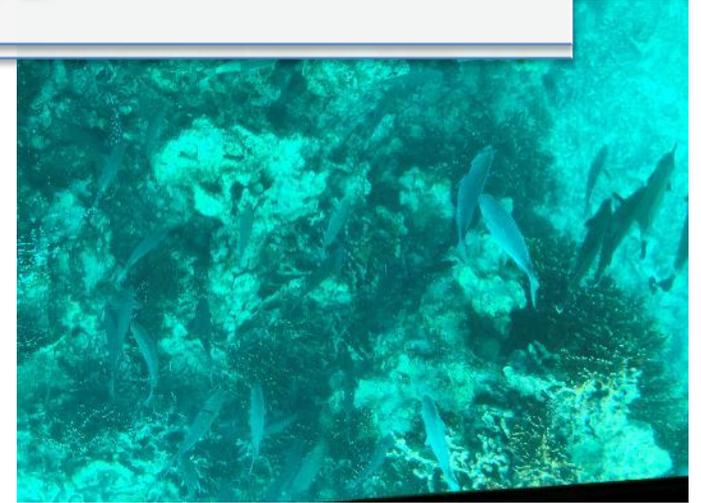
コロナ禍での教育・人材育成



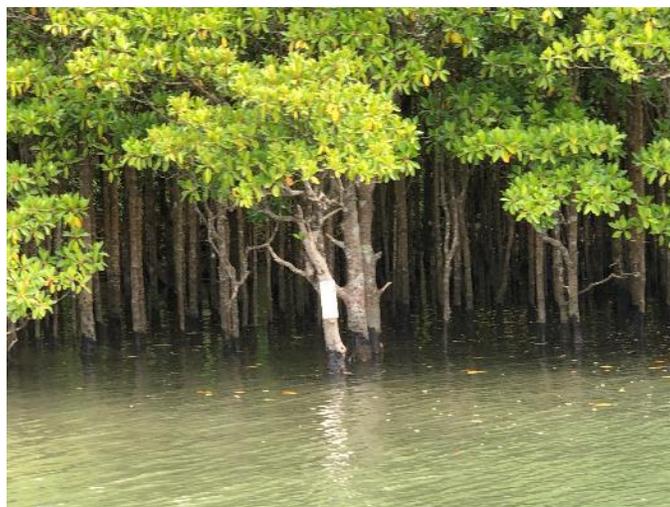
ESD

# おわりに:あらためて持続可能な社会を考える

## 「美ら海」の恵みを生かしたESD



# 森・川・海の生態系をつないだESD



世界自然遺産登録候補地「西表島」

# 地域の歴史や伝統・文化・暮らしを生かしたESD



黒島・豊年祭（竹富町ホームページより）



西表島・干立地区の節祭



由布島・水牛車



竹富島の伝統的な家屋



西表島・忘勿石